



2012年度SUM (Shizuoka University Motors) 活動報告

I.活動概要

全日本学生フォーミュラ大会9度目の参戦に向け、フォーミュラマシンの企画・設計・製作を行った。

[2012年度車両「浜風SS-612」]

2011年度大会走行データの分析より、「旋回半径の縮小」および「直線性能の向上」をコンセプトに車両開発を行った。

～伝統技術の継承～

SUMではサークル発足以来、大会参加車両の中で異彩を放つサイドエンジンレイアウトを採用、ヨー慣性モーメントの低減などの利点を最大限に活用し、総合入賞（第7回・第8回大会）を果たすまでにその技術を高めてきた。他にも、4気筒600ccスーパースポーツエンジンの縦置きレイアウト、シャフトドライブ等、特異な技術がSUMの伝統となっており、今年度もその性能の向上に努めた。

[マシンスペック]



車名：浜風SS-612

全長：2881 mm

全幅：1430 mm

全高：1040 mm

ホイールベース：1600 mm

トレッド前/後：1210 mm/1180 mm

車両重量：226 kg

排気量：599 cc

最大出力：79 ps/9750 rpm

最大トルク：6.5 kgf/8500 rpm

II.大会参戦結果

全日本学生フォーミュラ大会は、学生が企画・設計・製作した車両において、走行性能、設計、コスト、プレゼン等によりその優位性を競う大会である。

[車検]

車両製作が大会直前まで長引き、十分な車検対策を行うことができなかつたため、当日に十数カ所の整備項目の指摘を受けた。動的審査への参加が危ぶまれたが、チーム全員が団結して指摘箇所の改善を行い、翌朝の再車検を無事通過した。

[静的審査]

大会直前まで続いた車両製作に圧迫されたため、提出した静的レポートは十分な仕上がりとは言えなかったが、当日のデザイン・コスト・プレゼンテーションの発表において自分たちの製作したマシンの魅力を審査員に伝えることができた。



デザイン審査の様子

[動的審査]

加速性能では3位入賞を果たすも、耐久走行においてエンジン系統トラブルによりドライバーの健闘も空しくリタイヤとなってしまった。



アクセラレーション発進直前の浜風



エンデュランスを走る浜風

[2012年度大会成績]

	静的部門			動的部門					合計
	コスト	プレゼン	設計	加速性能	旋回性能	周回走行	耐久走行	燃費	
昨年度結果	35.62	31.58	89.00	57.89	37.87	121.03	17.00	0.00	389.99
配点	100.00	75.00	150.00	75.00	50.00	150.00	300.00	100.00	1000.00

総合得点：389.99ポイント
総合順位：32位/82チーム
受賞：加速性能賞 3位



Ⅲ.今後の展開

今大会では、車両製作の遅延等の影響からマシンの熟成を十分に行うことが出来ず、前大会同様に順位を落とす結果となってしまった。今後はスケジュール管理を徹底し、これまで培ってきた技術を熟成させつつ引き続きサイドエンジンでの表彰台を目指して活動を進めていく。

SUM HP : <http://www.sum-fsae.com/>

学生フォーミュラ大会公式HP : <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/>